

令和6年度 岡山県立矢掛高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年11月15日(金) 14:10～16:55
場所 矢掛高等学校 会議室
司会 田中宏和
記録 吉岡雄志
欠席 なし

【会 長】

檜崎 裕志 地域住民・学識経験者（元中学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長）

【副会長】

藤原 立志 地域住民・学識経験者（元小学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長）

【委 員】

入野 晶彦 地域住民（山陽新聞社）
奥村 美恵 地域住民（矢掛高等学校高校コーディネーター）
小野 秀明 学識経験者（矢掛中学校校長）
金子 晴彦 地域住民（前矢掛町観光交流推進機構理事長）
小寺 康弘 保護者（矢掛高等学校PTA会長）
妹尾 一正 地域住民（矢掛町役場矢掛高等学校支援特任参事）
堀 伸二 地域住民（備中西商工会副会長、矢掛町観光交流推進機構理事長）
宮本 浩治 学識経験者（岡山大学大学院教育学研究科教授）
高月 秀人 矢掛高等学校 校長

【事務局】

田中 宏和 矢掛高等学校 教頭
瀬尾 洋司 矢掛高等学校 事務長
吉岡 雄志 矢掛高等学校 主幹教諭、E S D課長
植田 雄介 矢掛高等学校 教務課長
松川 大記 矢掛高等学校 生徒課長
藤島 順子 矢掛高等学校 進路課長

【次 第】

1 開会

- ①会長挨拶【檜崎会長】
- ②校長挨拶【校長】

2 説明・協議

- ①令和6年度学校自己評価（中間）の説明【各課長】
- ②質疑・応答【各課長】
- ～休憩～
- ③令和6年度学校自己評価アンケートについて【主幹教諭】
- ④教育活動の現状と今後について【校長・主幹教諭】
「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」について
矢掛高校魅力化の現状
- ⑤質疑・応答【校長・主幹教諭】

3 連絡

- ①第3回学校運営協議会の日程について【教頭】
2月18日（火）または2月20日（木）の14:10～16:55
- ②その他

4 閉会

副会長挨拶【藤原副会長】

【議事録】

1 開会

①会長挨拶

檜崎

矢掛町政 70 周年に関わる行事が多い大変な時に集まっていた。傍聴は会長が認めている。守秘義務を守ってほしい。矢掛高校の同窓会総会が倉敷であった。150 人ほどが参加。校長が教えていた若い世代が参加していた。いろいろなところで矢掛町との連携ができている。広報誌を見たが、町が目指すまちづくり、矢掛高校が目指す学校づくりが書かれている。そのような高校づくりのための協議会である。御意見をいただきたい。

②校長挨拶

高月

広報矢掛の記事はありがたい。「このまちに矢高があるということ」という記事内で伝えたいと常々思っていたことに触れられている。本日の協議で背中を押してほしい。

2 説明・協議

檜崎

簡潔な説明をお願いする。生徒課長が生徒対応のため協議の順序を入れ替えて実施する。

③令和 6 年度学校自己評価アンケートについて

吉岡

pp. 3 の日程で実施する。アンケートは経年変化を見るために昨年度から変更していない。⑩を重視している。

④教育活動の現状と今後について

「矢掛高校魅力化の現状」について

校長

別冊「矢掛高校の今後の方向性」pp.1 を見てほしい。生徒のどのような力を育てるのかを重視している。やかげ学を受ける生徒の気持ちが形骸化してきているのではないかと危惧している。矢掛商業との合併当初の荒れた時期があった。このとき生徒を地域で活動させ、地域で指導していただくことで生徒も校内での甘えは校外では許されないという緊張感が生まれ、落ち着きを取り戻した。しかし時がたつにつれて、地域が高校生の力を伸ばしてくれているという実感が薄れてきているのではないか。コース選択ややかげ学のスタートの時に、管理職や主幹教諭から覚悟を持たせる指導を行っていく必要がある。

pp.2 には矢掛町としてどのような人を育てていくのかということを示している。中高連携の部活動が試行されている。pp. 4 の図に理念が示されている。長い目で見たら地域の方が部活動を指導してくれる体制を作ること、教員の負担感の軽減につながる。町内の小中学校の新任教員を対象に町内の巡検を行っている。そこに高校教員を加えてもらいたい。県も推進してほしいとのことであった。

pp.2～3 には地域・県と連携した教育環境の充実について示している。本陣会館を開放し、YKG や地域の子どもの活動の場としていく。Forest を開放しているが、その方針を見直して地域おこし協力隊の力を借りながら運営していきたい。

矢掛町との包括連携協定、大名行列実行委員会との連携協定を結んだ。高校生の学びの場を確保し、成長を地域とともに育みたい。

マレーシアのバトゥムダ高校との姉妹校協定を結んだ。今年中に ZOOM、3 年以内に現地視察、5 年以内に短期交換留学を実施したい。

pp.4 に広報活動の在り方について示している。今後も行政や商店街と一緒に魅力を伝えていきたい。

⑤質疑・応答

堀

本陣会館での学びの具体は何か

奥村

7 月 31 日のやかげまちづくりフォーラムで生徒が提言したものである。自習、協議、探究したり、YKG のイベントスペースとして活用したりしたいと考えている。エアコンの修理等が必要である。

檜崎

具体的にはどのように運用するのか。曜日を固定するのか。

奥村

月曜日は図書館が閉まっているので、生徒が困っている場面がある。

小寺

やかげ学について、大名行列の時に販売実習を行ったが、検定などと重なる。もったいないと感じる。ずらせないか。

吉岡

検定を動かすことはできない。大名行列を動かしても模試がある。重なっているところから選ぶ力をつけてもらいたい。

檜崎

やかげ学の行きや帰りの姿からも意識の低下を感じる。堀委員から見て商店街での様子はどうか。

堀

生徒にやかげ学に対する思いを聞いてみてもよいのではと思う。

藤原

挨拶は、小中学校でも指導を行っているが、学校だけではなく、いろいろな方面から指導が必要である。矢掛教育会議でも議題にしてはどうか。校内ではよく挨拶をするが、校外での様子を見直す必要がある。

入野

9月に本社へ異動になったが、今年度中は委員を続けさせていただく。岡山市ではすれ違った人同士挨拶をする習慣はなく寂しいと感じている。やかげ学をしたいと思って入学してくる生徒の意識は高い。意識が低い生徒たちに対応する仕掛けや仕組みが必要ではないか。

檜崎

部活動の地域移行について意見があるか。

妹尾

11月8日の様子はどうだったか。

小野

サッカー部は中学校6人、高校2人だったが、雰囲気はよかった。中学生は県大会の前日だったが喜んでいた。美術部は休みがちな生徒の居場所となっているが、メディア・アート部も同じような雰囲気だったと安心している。ジャズバンド部はこの時期はやかげ音楽祭に向けて毎年中高合同で活動している。普通の活動の延長で行えた。心配なところは、前向きな部ばかりではない点である。これからの浸透が大切である。

高月

サッカー部の活動を見たが、人数が増えると練習の幅も広がって充実していた。

田中

3つの部を見た。まずはよいスタートが切れたと思っている。ジャズバンド部では高校生が中学生を上手に指導し、自らも上達していた。メディア・アート部では、高校生が生き生きとして活動の報告をしてくれた。高校生にとってもよい居場所だったようである。サッカー部は人数が増えて活気が出た。これから少しずつほかの部にも波及していき、ほかの曜日にも活動が広がっていけばよい。

妹尾

雰囲気がよくわかってきた。町長にいい報告ができる。

金子

やかげ学で矢掛というものを教える機会があるのか。

吉岡

1年生では商店街を歩いたり、ボランティアに参加したりして、矢掛を知り、親しむ機会を設けている。2年生では町長や役場職員からの講話を頂き、3年生からの引継ぎを受ける。コロナ禍で中止しているが、実習を「見る」ということも必要である。

金子

生徒たちは矢掛町の歴史を説明できるか。矢掛町の歴史と今を感じ、見ることで矢掛町の魅力を知っておくとよい。様々な施策や魅力を知ることが郷土愛を醸成するきっかけになる。

吉岡

今年度は町長に講演をいただいたが、金子委員が言うほどのことはできていない。

金子

矢掛町の歴史を踏まえると大名行列など、矢掛の道程が深まるのではないかと。生徒たちには矢掛はオンラインワンであることを理解してもらいたい。矢掛に対するプライドにもなる。そうした要素をやかげ学を含め、矢掛の DNA を引き継いでほしい。

堀

生徒たちには興味を持って勉強してほしい。坂本産業の社長の話を聞いてみるのもよい。

妹尾

先輩の話を聞いてみるのがよい。企業理念などにも触れるとよい。

檜崎

1976 年の 9 月に大水がきたが、その年の 11 月に大名行列を行っている。その活力を感じてほしい。

宮本

何をどう活用して生徒を育てるのかを考えたときに、授業改善が大切である。空き教室の教材が散らばっている。学ぶ者の姿勢として問題がある。まず、教材管理から始めるべきではないか。

田中

矢高の授業理念を作って今年運用したが、教材管理は徹底できていない。更衣室や空き教室の使用規律を徹底したい。

宮本

自分の管理だけでなく、学校全体として環境整備に関する意識ができていないと授業改善にはならない。やかげ学どころではない。教科指導と体験的な学習とは一体のものである。矢掛高校のやかげ学は中学校と同じようなことをやっていて上積みになっていないではないか。

小野

中学校でも同じようなことをやっているが、高校とは狙いや理念が違う。やることが同じであっても高校で学びが深められていると思っている。

宮本

繰り返し行うことは大切である。狙いを明確にし、違いを作っていきたい。今ある状況を分析することも大切ではないか。そのような機会はあるのか。大名行列を通じて海外交流につなぐことができるのではないか。

入野

中学生の商品開発にも助言者として関わっている。やかげ学と中学校の職業体験の違いを作って、高校生がやるべき学びを作っていくことを考えないといけない。

藤原

矢掛町には学びの様々な要素がある。やかげ学を通じて自分探しにつながって進路決定につながっていることもある。矢掛小学校でも自分たちが地域のためにできることを考えている。矢掛中学校でも同様のことを考えているのではないかと。

小野

総社市から矢掛高校に入学した生徒が、矢掛小学校の卒業生でないにも関わらず、やかげ学に行った矢掛小学校にどうしても教育実習に行きたいという生徒が出ている。

堀

インバウンドのことはDMOが担当している。大名行列に外国人観光客を呼ぶには何を見せ、何を食べさせ、どこに泊ませるか研究が必要である。ぜひ、いろいろな問題をクリアしていきたい。矢掛文学賞にテーマを与えるようにやかげ学にもテーマを与えてはどうか。

妹尾

外国人の方が興味を持っているであろうという大名行列の話は、テレビでやっていた。宮本委員が言う通り、外国人観光客を呼ぶことを考えなければならない。

～休憩～

①令和6年度学校自己評価（中間）の説明

植田（教務課）

授業改善のための校内研修を実施している。生徒指導に関することはよく話ができているが、授業について話をする機会をもっと増やすための方法はないか。

松川（生徒課）

悩みを抱えている生徒が多い。面談などを使って、生徒が課題を解決していくように導いていきたい。クラス一丸となってよい矢高祭になった。悩みを持っている生徒とカウンセラーの相性が合わないことで、利用しない場合もある。ほかの相談員を派遣するなどの依頼ができる機関はないか。

藤島（進路課）

集会などで挨拶や身だしなみも含めて進路意識の向上を図っている。基礎学力向上のためにスタディサプリを使っている。いろいろな行事への参加を後押ししている。そのあたりの意欲が学力向上につながっていないことが課題である。社会が矢掛高校に期待することは何だろうか。矢掛町からの補助を活用して代ゼミの講師に来てもらっている。これは探究コースに限られるので、全校生徒への利益になっていない。スタサプの利用料金（7000円程度）なら多くの生徒に利益を与えられるが、どうか。

吉岡（ESD課）

嫌なことにも積極的に取り組めるようにさせたい。学びのないボランティアはないので取り組ませたいが、生徒の「やりたい」という気持ちを引き出すためにはどうすればよいか考えている。

「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」についてはコーディネーターをどう育てるか、コーディネーター同士の横のつながりをいかにつくることが研究テーマとなっている。本校のコーディネーターはやかげ学やコンテストの指導、広報の担当をしている。効果が出るには時間がかかる。次回意見を頂きたい。コーディネーター同士の横のつながりを作るには高校がよりよい活用方法を考えなければならない。コーディネーターに任せきりではいけない。

②質疑・応答

堀

今の高校生はどのような悩みを持っているのか。

松川

人間関係や家庭でのことが多い。ほかにも級友に悪口を言われているような気がするという生徒もいる。

檜崎

私が担任をしていたときに「私を嫌いにならないようにせよ。仮に嫌いになっても学校の中に1人は相談できる先生を見つけよ。」とよく言っていた。スクールカウンセラーとの相性が悪くても、学校の中に相談できる教員を必ず見つけられるよう指導すれば救える場があるのではないか。

入野

現在はどこから派遣を受けているのか。

松川

県からの派遣である。

入野

山陽新聞社は淳風会を通して。淳風会は民間団体のみ担当しているようだ。県心理士臨床心理士協会に相談してはどうか。県から派遣されるスクールカウンセラーの報酬は1回にどのくらいか。

瀬尾

1回 11,500 円ほどである。年間を通じて同じスクールカウンセラーが担当している。

入野

年度途中で変更はできないのか。

瀬尾

年度途中で変更した例は聞いていない。予算的には追加で呼ぶことも不可能ではない。

入野

報酬が安すぎる。「社員がメンタル不調になる前に」の著者藤田康男さんが展開しているネット上で相談できるビジネスもある。1000 円×生徒数×月数である。藤田さんの講演会もある。

奥村

スクールカウンセラーは、小中学校に行っている場合は兼ねられないのか。

田中

兼ねられる。

奥村

今年度の菌っ子だっぴで来ていただいている岡田さんはカウンセラーの資格を持っている。応援に来てくれることもあるのではないかな。

宮本

やかげ学などでいろいろな大人に触れているのに相談できる相手を見つけられないのはやかげ学の失敗ではないかな。

田中

やかげ学が現在、100 点満点とは思っていないが、やかげ学が失敗であるとも思っていない。

宮本

やかげ学を通じていろんな環境の中で自分の居場所を作る力が育てられなければならないのではないかな。もっといろいろな視点を入れていきながらやかげ学を変えていく必要がある。探究フォーラムで大野啓介氏は「学校がすべてではない」という形を作っている。部活動やそのほかの活動で先輩や大人と出会ってきた。それぞれの個人の社会を作っていく取り組みを考え、教育活動を見直す必要があるのではないかな。授業改善を進めていくには、生徒にどんな力をつけさせたいかを共通理解して、お互いに健全な批判することから始めればよい。

植田

他校の例でよいところはあるかな。

宮本

隠岐島前や隠岐水産では職員室内でお互いに話ができています。国立大学の問題を各教科が解いているのか。その問題を分析して変わっていかなければいけない。矢掛中学校は非常にいい授業をしている。矢掛中学校に相談に行けばよい。

入野

スタディサプリの購入補助の依頼があったが、どのような効果があるかな。

藤島

今 2 年目の利用である。家庭学習時間の確保、義務教育段階の知識をつけてほしいという目的である。有効に活用している生徒とそうでない生徒がいる。

入野

バトゥムダ高校との姉妹校との連携について、どのように持っていくかを詰めていきたい。

吉岡

今年度内に ZOOM、3 年内に現地視察、5 年以内に短期交換留学を実施したい。

宮本

ビジネス的な視点も持てる。そのようなやかげ学になってほしい。町を歩いて町を知ることによってやかげ学につながればよい。生徒に探究させるなら教員も探究しなければならない。授業を良いものにすれば授業に真剣に取り組み、家庭学習もするようになる。課題の根本は皆同じで、すべてはつながっている。生徒のためになる教育活動を教員が探究しなければならない。

小寺

子どもは楽しんで学校に通っている。保護者の目線でいうと、3 年は進路決定の時期。就職などの指導はされているのか。

藤島

3 年になってから就職希望者を集めて基礎学力などの講座や面接対策を行っている。

小寺

片付けなども社会に出てから大切な力。しっかり指導してもらいたい。

妹尾

中学生の職場体験では生徒は名鑑などでわかるようになっていてよかった。校則については法的安定性と具体的妥当性の上に立脚している。校則も時点修正が必要だと思う。校則を生徒が変更できるような仕組みはあるのか。具体的には「ツーブロックは禁止」ということについては、「就職などに支障がでる」ということだったが、複数の企業や官公庁の採用担当者に聞いたがツーブロックであることが不利に働くことはないという回答だった。ツーブロックが禁止であることで矢掛高校の受検を迷う生徒がいた。原付自転車通学について、井原線から南側については認めている例がないと聞いているが、拡大してはどうか。

松川

現在、いろいろな規約を修正している。生徒には「中央委員会」で学校に要望を上げていくという仕組みがある。今年度、生徒会とも連携を取りながら来年度くらいで固めていきたい。

妹尾

中央委員会とはどのような組織か。

松川

本部役員、専門委員会委員長、各ホームルーム室長、各部・同好会代表で組織される。

妹尾

過去、ルールが変更された例はあるのか。

吉岡

既定のバッグを廃止したことがある。

妹尾

原付自転車通学についてはどうか。

松川

標高 180 メートルを超える地域に居住する者と定めている。富峠のあたりからは電動自転車を利用するよう指導している。

妹尾

原付自転車での通学範囲を拡大することも検討してほしい。

田中

昨年度、本校の生徒会メンバーが校則緩和について学校運営協議会で提案したことがあった。そのとき宮本先生をはじめ、ほとんどの委員から今ある学校の規則が守れないのに、進学就職は難しいという意見をいただいた。まずは現在の校則をきちんと守らせることが大切だと考えている。

宮本

生徒会のメンバーに提案の仕方を指導することも必要ではないか。授業改善は小中学校に良い例がある。

事務長

矢掛町の魅力化補助金について第1回学校運営協議会での説明が不十分だったので補足する。矢掛町から多額の予算を組んでいただいている。進路意識の向上などの目的で100万円の予算がある。昨年度は86万円の支出をいただいた。約82万円を代ゼミに支出して、約4万円は返した。

（資料「令和5年度の魅力化事業のお知らせ」配布）選べるサポート、資格・検定試験サポートの説明。

3 連絡

①第3回学校運営協議会の日程について

教頭

2月18日（火）または2月20日（木）の14:10～16:55に実施する予定である。現段階で都合の悪い委員はいるか。

妹尾

税の申告期間なのでどちらも参加できない。

②その他

檜崎

日頃の気楽なコミュニケーションが大切である。

妹尾

中高の連携は皆様の協力があってうまくいっている。お礼を言いたい。

4 閉会

副会長挨拶

藤原

長時間の協議に感謝する。子どもの数が減り、学校が無くなれば、町が寂れることは避けられない。生徒が行きたいと思えるような学校づくりをしていくことが必要である。授業改善については、生徒自身が自分の将来を選べるようにする。やかげ学は、入口、出口にどうなってほしいのかを単純化して考えていくとよいのではないか。挨拶ができる元気なまち、元気な学校にするためには若者の声を生かすこと。魅力づくりには当たり前のことを当たり前にやればよい。フォーラムなどの場をさらに充実させるのは学校関係者、教育行政、住民の責任である。さらに大きな課題がでてきた。部活動の連携は働き方改革の文脈以外のことも考慮して長期的な視点で考えたい。